

# 学 校 概 要

## 1 学校名

豊橋市立東部中学校

## 2 所在地

〒 440-0834

豊橋市飯村北四丁目1番地の2

T e l : 0532-63-1355

F a x : 0532-65-1203

E - m a i l : [toubu-j@toyohashi.ed.jp](mailto:toubu-j@toyohashi.ed.jp)

### 【交通案内】

豊鉄バス岩田団地線岩田団地前下車



## 3 学校規模

学級数：22 特別支援：3 合計 25学級

教員数：校長 1 教頭 1 教諭 44 養護教諭 2  
非常勤講師 4 事務職員 2 用務員 1 合計 55名

生徒数：男子 442名 女子 377名 合計 819名

## 4 本校の教育

### (1) 校区の概要と学校の歴史

東部中学校は、豊橋市の東に位置している。昭和57年度豊岡中学校より分離し、市内18番目の中学校として飯村町に開校した。開校当時、最新の施設・設備の整った白亜の校舎のもと、「東部中学校の伝統と歴史は、私たちの手で作り上げていこう。」という意欲に生徒たちは燃えていた。こうした生徒たちの思いを尊重し、「細かな規則やきまりで縛りつけるのではなく、自主的自立的な行動を大切にしよう。」という精神で教育活動が行われてきた。こうした精神は、現在でも「生徒の心がつくる東部中」を合言葉に、全生徒と全職員が一体となった活動が行われている。

校区は、飯村・岩西・つつじが丘の三つからできている。平成26年度の生徒数は1年生267名、2年生280名、3年生272名、特別支援学級18名の合計819名である。生徒数では、豊橋市で有数の大きな中学校である。今年で開校33年目を迎え、新たな東部中の伝統を創り上げている。

### (2) 本校の教育目標

生き生きとした活力ある学校生活を送らせるなかで、社会の変化に対応できる知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな生徒を育成する。

- 自ら学ぶ生徒
- こころ豊かな生徒
- たくましい生徒



(3) 経営方針

● 規律正しく、心豊かな生徒の育成について

- ア 安心して学べる環境の整備に努め、確かな学力、学ぶ意欲を育てる。
- イ 共働、共汗の喜びが得られる諸活動を推進し、集団における連帯意識を育てる。
- ウ ボランティア活動（地域ボランティア活動を含む）を推進し、他者のために働くようとする意欲と実践力を育てる。

● 確かな学力の保障と教職員の資質向上について

- ア 分かる喜び、できる楽しさを意識した授業改善に努めるとともに、校内現研の充実を図る。
- イ 個に応じたきめ細かな支援・指導とともに家庭学習の充実を図る。
- ウ 各種の研究大会や自主的研究活動に積極的に関わり、指導力の向上に努める。

● 生徒の育成につながる開かれた学校づくりについて

- ア 家庭や地域への情報公開を進め、教育活動への理解と協力を得る。
- イ 学校評価の取り組みを推進し、教育活動の改善につなげる。
- ウ 地域人材の支援を得た魅力ある学びの場を通して、地域の連帯感を高める。

(4) 本年度の重点努力目標

● 学習指導

- ア 落ち着いた学習環境の創生、創意工夫のある「わかる授業」の展開に努める。
- イ 全職員で行う各教科の学習指導の方法に関する研修と実践を進める。
- ウ 指導と評価が一体化した授業の展開から生徒の関心と意欲の向上を図る。
- エ 生徒の意欲を高め、生徒の個性・能力に合わせて、習熟度別の宿題（質や量を考慮する）を整える。

● 特別活動

- ア あらゆる教育活動の基盤となるものとして、学級経営の充実を図る。
- イ 「生徒の主体性」を促し達成感が感得できる学年・学校行事を創造・継承・発展させることで、行事だけでなく生活全体へ「生徒の主体性」を浸透させる。

● 生徒指導

- ア 生徒の実態に応じた厳しくとも温かい指導を通して、思いやりと節度のある生徒を育てる。
- イ 相談活動を充実させ、コミュニケーションがとれ人と人との関わりを大切にする生徒を育てる。
- ウ 各種行事や委員会活動・道徳・部活動等によって個性の伸長や豊かな情操の育成に努める。
- エ 不登校生徒に対して、「学校は、楽しくて安心できる場所」の考えのもと、教育活動を推進する。

● 健康教育と安全指導

- ア 計画的な学校保健委員会を開き、保健指導や避難訓練等を通して、適切な自己管理や危機管理に対応できる生徒を育てる。
- イ 道路交通法の変更等に伴う指導を徹底し、交通事故の防止に努める。

# Application for Participation

## Associated Schools Project (APS) for Promoting International Education

人との関わりを大切にし、自己を高め合うとする生徒をめざして  
—生徒が生き生きと活動する特別活動、養護学校との交流・地域との交流を通して—

### 1 Description of the Project (プロジェクトの概要)

#### (1) 学校概要

本校は、豊橋市の東に位置し、湖西連峰を挟んで反対側は静岡県の湖西市になる。湖西市には、自動車、電気関連の大規模工場も多く、保護者の多くは、県をまたいで就労している。学校は新興住宅地域にあり、歴史的にも浅く、防災を含めた地域連携の取り組みが自治体を中心に計画されている。

現在、生徒数は820人を超え、市内でも大きな学校となっている。外国人生徒も多く、常に40名前後が在籍している。生徒指導上の問題も抱えており、生徒の健全育成が急務となっている。

#### (2) めざす生徒の姿

自ら学ぶ生徒 (知)

こころ豊かな生徒 (徳)

たくましい生徒 (体)

校区や生徒の実態を踏まえ、上記の「めざす生徒の姿」を掲げるとともに、「こころ豊かな生徒」の育成が最大の課題であり、具体的な生徒の姿を、

○異なる意見や他者の考えを尊重し、思いやりを持って自主的に取り組む生徒

○自分のあり方、課題を見つけ、探求し、将来への夢を持てる生徒

とし、「めざす生徒像」を現実のものとするため、持続可能な発展のための教育 (ESD) が有効であり、本校の教育の柱とすることにした。

### 2 Objectives of the Project (プロジェクトの目的)

校区には、戦後の復興期に設置された育成園をはじめ福祉関連の施設が多く存在し、県立の養護学校もある。また、近年開発された住宅も多く、人々のつながりが強い地域とはなっていない。

こうした環境を踏まえ、生徒の「心の育成」をESDの目標に位置づけ、生徒の変容、学校の変容を期待した。そして、次のような考えを確認した。

障がいをもつ人とのふれあいを大切に交流や地域との交流を行うことで、相手を思いやる心が育つであろう。また、集団の中における自己の存在に気づき、集団の中の一員としての自覚をもつことができるであろう。

そして、具体的なプロジェクトの実践場面を福祉交流と小・中・地域連携にした。

### 3 Execution (プロジェクトの実践)

以下に示す活動は従来の活動であるが、さらにESDの視点に立って充実・発展させたい。

#### (1) 養護学校体育大会への参加

校区には、豊橋養護学校があり、本校の創立以来30年の長きにわたり、さまざまな交流活動が続けてきた。

5月には、養護学校の体育大会がり、ここ数年は、体育大会のオープニングに吹奏楽部が演奏している。

養護学校の生徒の多くは、自らの歩行が難しく車イスで移動しているが、吹奏楽部の演奏に合わせて、手を動かしたり、足踏みをしたりして入場する姿が見られ、多くの保護者も微笑んで行進を見守っている。



現在は、吹奏楽部のみのオープニング参加ではあるが、今後は生徒会を中心とした活動へのシフト変換を考えている。

## (2) 福祉交流会

1年生の取り組みとして、養護学校との交流会を6月と11月の2回位置づけている。

第1回の目標には、障がいをもつ同世代の生徒との交流を通して、自分達のできる援助について考え、コミュニケーション能力を高めること、学級企画の話し合いや準備を通して、主体的に取り組む態度を養うことを主なねらいにし、養護学校の中学部の生徒を迎えている。

交流会は、各学級の実行委員会を中心に考えられ、ペットボトルボーリング、なんでもバスケット、自己紹介ゲームなどが学級ごとに準備される。1年生は、こうした活動に慣れていないものの、道具作りや会場設営に積極的に関わることができている。



会場の移動にも苦勞する養護学校の生徒も多いが、養護学校の生徒に優しく接する姿も見られ、交流は和やかな雰囲気となっている。養護学校の先生も、「何かと人との接触に限定されることが多いのですが、生徒も楽しそうです」「保護者の方も交流会があるのを喜んでいます」と語られていた。



11月の第2回目の交流は、社会福祉への意識・意欲を高めること、職業や進路への考えを広めること、そして、支援や介護の仕方を学ぶ中で、コミュニケーション能力を高めることをねらいに、老人福祉施設、デイサービス等へ訪問しての福祉体験を実施している。福祉は社会的な理解も深まり、安定した学習を展開できている実感をもっている。

福祉は社会的な理解も深まり、安定した学習を展開できている実感をもっている。

## (3) 小・中・地域連携の活動

### ア TNP(東部ナンバーワンプロジェクト)会議

東部中校区をあいさつのできる、さわやかな地域にしたいとの思いから、今から10年以上前に、小学校と中学校が一緒になり「あいさつサミット」がスタートした。登校時に、小学生

と中学生が一体となって、あいさつ運動をしたり、あいさつ標語を作成したりして活動してきた。

この「あいさつサミット」の活動が発展するかたちで、東部中校区があいさつだけでなく、生活しやすい校区、安全な校区になってほしいとの願いから、東部ナンバーワンプロジェクト（TNP会議）の活動がスタートした。会議には、3小学校1中学校の児童生徒だけではなく、自治会、PTA、ライオンズクラブ、民生児童委員、教育ボランティアをはじめ様々な立場の方に参加をいただき、意見・アイデアをもらっている。

また、TNP会議では、地域環境の美化を目指して、校区内にある公園の清掃にも取り組み始めた。幸公園・飯村公園・佐藤公園の大きな公園を中心に小学生、中学生、地域のボランティアが秋の早朝に掃除道具を持ちよって清掃に取り組んでいる。

#### イ 地域ふれあいフェスティバル（生徒会、有志、部活動）

何かと希薄になりがちな地域民のつながりと学校の教育活動の公開をねらいに8月に、豊橋市の市民文化会館を会場に「ふれあいフェスティバル」を開催している。

前述したTNP会議の提案をもとに運営されるが、午前中には、東部ふれあい広場として、中学校のブースだけではなく、3小学校の児童を中心にブースが設けられ、地域の人々との交流を行っている。例年、昔の遊びとして、けん玉やお手玉をはじめ、スライムづくり、ペット



ボトルボーリングなどが、実行委員を中心に運営されるが、親子づれの小さな子ども達を中心に笑い声が会場に響く。

午後には、コンサートホールで、ふれあいコンサートが行われた。学園、小学校、中学校それぞれから、合唱、和太鼓、吹奏楽の演奏が披露される。

今年のフィナーレでは、手話をつかった全員合唱が行われた。中学生は、手話の学習をしており、会場全体に地域の輪と福祉の輪が広がった。



以上の取り組みをESDに位置づけ充実・発展させていく。

#### Type of materials to be used（使用する教材）

「キャリア教育ノート」

「グループ体験による学級育成プログラム」

「中学校キャリア教育の手引き」

「自分と未来をつなぎ、未来を拓くキャリア教育」

「キャリア教育体験活動事例集」（第1、第2分冊）

愛知県教育委員会

図書文化河村茂雄著書

文部科学省

国立教育政策研究所

国立教育政策研究所

**Is there any type of evaluation to examine the effects of the project on students' comprehension and attitudes?（プロジェクトに対する生徒の理解と姿勢の評価方法）**

本校は、様々な家庭環境、交遊関係を抱える生徒を「受容」の精神で受け入れ認めてきた。また、教員対生徒だけの構図ではなく、生徒対生徒、生徒対地域の良好な関係を築くことが、健全育成にはより効果的であると考え、リーダー講習会をはじめ、多くのねらいをもって生徒会活動の充実を図ってきた。

こうした長年の反省を踏まえて、今回取り組むE S Dにおける生徒の理解と姿勢の評価を次のような視点で考えている。

- 活動に対しての意見交換（発言）や振り返り（文章）において、生徒の変容を確認する。
- 活動に参加した保護者や地域の人々との意見交換の場で生徒の活動を評価してもらう。
- 発表の場だけではなく、準備段階における話し合いや関わり方の評価をチェックし評価する。

さらに、E S D活動のさらなる充実をめざして、年度末に実施する保護者アンケート、学校関係者アンケートに評価項目を設け、意見集約をし、その結果（生徒理解と姿勢）を保護者、地域に発信する。

On behalf of my instruction, I apply for participation in the UNESCO Associated Schools Project and give the assurance that this institution will make an active contribution to the Project, as outlined above, for a minimum period of two years. At the end of every year,

I shall submit a report of the Project to the APS National Co-ordinator of my country. (本学校を代表して、ユネスコA S Pの参加申請をし、少なくとも2年間は上記概要にそってA S Pに貢献する活動を行うことを確約します。また、毎年A S Pコーディネーターに活動のレポートを提出します。)

Date (日付)

Principals' name (学校名 ※直筆)

Position, (役職)

Institutions' Name (学校名)

Toyohashi municipal TOBU junior high school